

OF NARA 奈良人 奈良人

イノベーション&挑戦編 4

生産者と笑顔で語らう中井公人さん。座右の銘は「今がすべて」三葛城市太田の「道の駅かつらぎ」



道の駅かつらぎ駅長

葛城の豊かな大地が育む旬の食材をはじめ、魅力的な県内産品がずらりと並ぶ道の駅かつらぎ。2016年11月に開業して6年、県の西の玄関口の交流拠点として躍進してきた。

買い物しご通過数は年間約50万人。新型コロナウイルスのパンデミック以後は大規模な集客イベントは行わず、本売スペースなど一部施設も閉鎖中だが、感染症対策を徹底して乗り越える。従業員約50人が生産者・出荷者約700人と結束して地域を盛り立てようと努力してきた。

3代目駅長として先頭に立ち「スタッフも生産者・出荷者さまもお客さまも、皆が楽しく喜ん

次代へ郷土愛つなぐ

きで、縁を大切に、ふるさとに貢献できるチャンスだと思った。統括部長を経て、2年前に駅長を任された。

「行政のバックアップがあり、会社役員や歴代駅長は土を耕して水をまいてくださった。私はいい苗を植える」と大きな花が咲く次代を



地産地消の拠点としてにぎわう「道の駅かつらぎ」(同)

中井 公人さん (61)

で、幸せになってもらえる道の駅であり続けたいと明日に向かう。

18歳で飛び込んだ流通業界を駆け抜け、55歳で道の駅かつらぎに転職。人と接する仕事が心底好きで、縁を大切に、ふるさとに貢献できるチャンスだと思った。統括部長を経て、2年前に駅長を任された。

「行政のバックアップがあり、会社役員や歴代駅長は土を耕して水をまいてくださった。私はいい苗を植える」と大きな花が咲く次代を

うに気を配り、店に出れば生産者やお客と会話か弾む。若手生産者に新しい作物を紹介するなど地域の生産力を高める裏方でもある。「子どもを育て、地域においがる店にしていきたいですね」

「一歩前へ一歩上へ共に」は2022年の自身のスローガン。県内16の道の駅でつくる団体「県『道の駅』連絡会」の会長も務め、全体での魅力増進にも意欲的に取り組む。

ひそかに温めているのは県内道の駅が大集客する新しいイベント企画。「「生きてる感」を発信していきます」と歩みを止めない。

信じる。郷土愛とともに、先人から引き継いだ思いを、トンタッチすることが使えた。

一番大切にしてるのはコミュニケーション。朝礼ではスタッフ全員が情報や目標を共有できるよ

創業は暦未1854(安政元年)。2014年に6代目の社長に就いた。創業者の増尾専次郎は奈良五石町打た

(47)

ドローンの可能性探る

「包む」軸に新価値創造

1955(昭和30)年に製縄(せいじょう)業として創業し、段ボールの製造、企画、販売に取り組む葛城市の高木包装。2017年10月に社長に就任し、パッケージデザインにも注力するなど、「包む」を軸とした新たな価値を創造、社会に提供し続けている。

漏れる光が温かさを感じさせる照明カバー。災害発生時の避難者の生活を助ける簡易ベッド。これら、素材は全て段ボールだ。「段ボールを『DANホール』に変えていきたい」。『デザイン(Design)』『愛(Ai)』『自然(Natural)』の頭文字は、社会に提供したい価値を示している。

大学卒業後、包装業界の他社3年間、営業を担当した。女性の営業は珍しい時代だったが、顧客や同僚などの関わりの中で仕事を形にする喜び

高木包装社長



「発想力を豊かにして、新たな価値を提供したい」と語る高木美香社長(三葛城市)

高木 美香さん (55)

を知った。モノを包むことで付加価値が生まれる。「包装」のこうした機能にもほれ込んだ。

パッケージデザインを通じて段ボールの新たな可能性を提示しようと、高木包装では10年ごろから、デザイナーを雇用している。象徴的な製品が県内の農家がつくった高級チョコレートを語る金色のお重や玉石箱のようなボックス。特別な日のプレゼント用として好評だ。



高級のチョコレートや玉石箱のデザインは高く評価されている(高木包装提供)

パッケージデザインの国内コンテストでは16年から6年連続で入賞し、新たな領域を開拓している。

プラスチックごみが環境問題化する中、段ボールを閉じるプラスチック製バンドに代わるわら縄の製造を計画する。「われらは自然に戻る。創業の原点に立ち返ることも大事だと思う」と語る。

女性経営者への風当たりが強さを感じることはいまだにあるが、20年になつた創業で父の正年さん(享年83)は時代に応じた業界の変化を進められるとバトンを託してくれた。最近はその推し量るようになった。

10月中旬には初孫が誕生する予定。リモートで勤務する「祖母休暇」を1カ月取得し、初孫を見守りながら仕事したいと声を弾ませる。

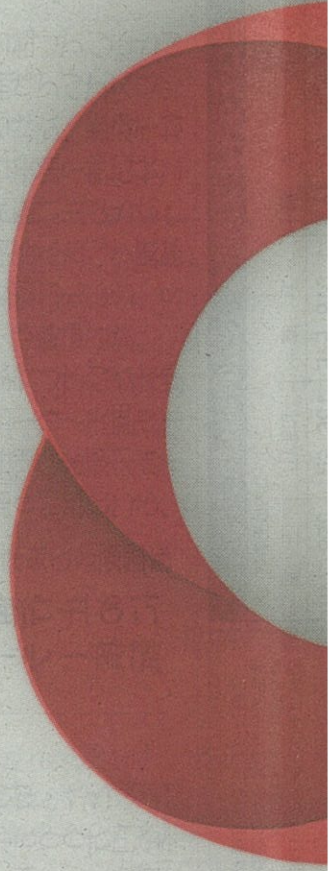
「時代の価値観は代わり続けている。発想力を豊かにして段ボールつてすごい」と思われる価値を提供し続けたい」

「世の中の役に立つ事業を行うこと」

それが大和ハウス工業の、創業以来変わらぬ使命です。

その想いを受け継ぎながら、

私たちの事業は、住まいづくりから、やがて街づくりへ、



京阪奈トローラホームには若手高橋嗣・内閣府特命担当大臣(国土)も訪れた17月2日、奈良市三条大陣1の県コンベンションセンター

朝30分間の筋トレと5時のジョギングが目録だ。趣味は読書。最近読んだ本で感銘を受けたのは株式会社